

(様式1)

令和5年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	個々の障害の状態や心身の発達の段階に応じた教育活動を通して、ことばの力と基礎的・基本的な学習内容の定着・向上を図り、心豊かにたくましく生きる幼児児童生徒（以下「子ども」という。）を育てる。
(2) 現状と課題	本校は県内で最も小規模校な聾学校であるが、他の障がい併せ有する幼児児童生徒の割合が多く、また、医療的ケアを要する児童生徒が複数名在籍するなど、個々の実態差が大きい。子ども一人一人の実態に応じ確実に伝わるコミュニケーション手段で学習を積み重ねることで、学習の定着が見られており、手話等によるコミュニケーション力、教科の授業力、聴覚活用にに関する専門性等、聴覚障害教育の充実と業務のスリム化が課題である。
(3) 重点目標	1 子ども一人一人の教育的ニーズに応じた学習指導の充実
	2 地域とともにある学校づくりの推進
	3 教職員の専門性向上と地域のセンター的機能の充実
	4 教育活動の重点化と働き方改革の推進
(4) 結果の公表	・学校運営協議会で学校評価アンケートの結果と今後の取り組みについて説明・配付した。 ・PTA全体会で学校評価アンケートの結果と今後の取り組みについて説明・配付した。 ・学校ホームページに学校評価結果報告書を掲載し、地域に発信した。

学校整理番号	特4
学 校 名	青森県立弘前聾学校
対象障害種別	視覚・聴覚・知的・肢体・病弱
自己評価実施日	令和5年12月18日(月)
学校関係者評価実施日	令和6年 2月15日(木)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	
・社会福祉法人理事長 ・学校所在町会代表 ・元PTA ・耳鼻科医 ・聴覚障害者協会事務局長 ※学校運営協議会委員を兼ねる	・幼保園園長 ・前PTA会長 ・大学准教授 ・聴覚障害者協会会長 ・本校校長

自 己 評 価					学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	授業力の向上を目指し、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育活動	個別的教育支援計画等を全教員で共有する場を設定し、効果的なICTの活用して学習指導の充実を図る。	一人一人の教育的ニーズ等について全職員で確認し、個々の実態や学習の特性に応じたICTの活用を図ったことで、分かる授業づくりを行うことができた。	A	一人一人の実態に応じた分かる授業に取り組んでおり、家庭との連携もとれている。学校全体でリモートやICT機器の活用が向上したと感じる。	保護者に丁寧に学習状況や指導方法等を説明し、職員間で日々の学習状況を共有できる時間や場を設定する。また、効果的なICT機器の活用を図っていく。
2	地域の人材や資源等を活用した特色ある教育活動	地域の専門性のある人材を活用し、体育・文化的取組を行う。また、交流及び共同学習や地域と連携した学びを充実する。	地域の人材を活用し、少林寺拳法や造形活動等を行った。福祉施設や小学校等との継続的な交流活動に加え、高等学校と調理活動や部活動での交流を行った。	A	地域資源や外部人材を活用した取組で子ども達が楽しそうである。意欲が感じられるので、貴重な年代との交流（青聾・実業）を継続してほしい。	外部人材の活用や地域との連携を広げ教育活動の活性化を図り、計画的・効果的に実施する。学校HPの掲載内容を工夫するなど情報発信を積極的に進める。
3	聾学校教員として特別支援教育の専門性の向上と地域におけるセンター的機能の充実	外部講師による研修会を実施し一人一授業改善を行う。計画的に協議会等を行い関係機関との連携を強化する。	職員の専門性向上への意識が高く、主体的に研究グループ等で授業改善に励んだ。関係機関の方を講師にした研修会や協議方法の工夫により連携が深まった。	A	子ども達が学校は楽しいと思っているので、今後も専門性を向上させてほしい。地域の言葉の後れが見られる未就学児の支援に協力してほしい。	聴覚障害や教科等の研修会を実施し、個々の専門性を高め、全教員の授業力向上に努める。センター的機能を発揮し、未就学児の支援を進める。
4	教員間の連携による教育活動の改善及び働き方改革の推進	明るい職場づくりを推進し、学部・分掌において、必要な教育活動を重点化し、業務のスリム化を図る。	教員間の連携を図り、教育活動を精選・重点化し、学部・分掌を越えた協力体制で実施した。業務バランスを把握し業務分担を見直して業務の平準化を図った。	A	職員の負担感が大きくなって良かった。対外的な行事等が多くなると負担感が増すため、必要な教育活動を見直しながら実施することが大切である。	風通しのよい明るい職場づくりを推進し、組織的に教育活動を精選・重点化するとともに、業務内容を見直し、平準化を図り、教育活動の充実に努める。

(11) 総括	幼児児童生徒の個別的教育支援計画等を共有し個々の実態に応じた教育活動が展開されたことで、児童生徒のアンケートでは全員が「学校は楽しい」と回答し、保護者アンケートにおいては日々の教育活動、行事、指導方法等について高評価が得られた。子どもとの信頼関係、家庭との連携が丁寧に行われていたことがうかがえる。今後も、保護者懇談やPTA全体会、校内掲示等で教育活動の様子や進路情報などを丁寧に伝え理解を得られるよう努め、学校HP等で積極的に情報発信し地域から求められる学校を目指したい。
---------	---